

英語科学習指導案

平成 15 年 10 月 20 日 (月) 第 1 校時

3 年 5 組 チャレンジコース 指導者 奥村 隆

1 時間目

(1) 本時のねらい

「ディベートをしよう」という学習の目的を知り、「四季の中でどの季節が好きか」をテーマとしてその理由とともに自分の考えを英文で書くことができる。

(2) 準備 ワークシート

(3) 本時の展開

学習活動 (時間)	学習活動への支援	形態	評価項目 (評価方法)
1 英語であいさつする。 (2 分)	元気に大きな声であいさつする。 今日の曜日、日にち、天候を指名してたずね、その後、大きな声でリピートできるようにする。	一斉 個別 一斉	
2 「ディベートをしよう」という学習の目的や内容を把握し、これからの学習の見通しを立てる。(3 分)	説明を聞いたり、ワークシートを参考にしたりして、学習の目的や内容を確認し、今後の見通しを立てられるようにする。	一斉	
3 「中学校では、制服が必要か」、その理由を英文で書く。(20 分)	選択肢を選んだ理由を述べる文を 1 つ書き、その文について発展する英文を加えるように助言する。 英文を書き、その意思をはっきりと示すために教室の前後に分かれる。また、意見が言えた生徒から自分の席に戻って座るようにする。 互いの英文を聞き、英文の優れた表現や理由を聞き合い、ほめ認め、自信をつけさせるようにする。	一斉 個別 一斉	関心をもって英文を書こうとしている。 【関心・意欲・態度】 (観察) 語順や文法事項に注しながら自分の意見を英文を書くことができる。 【表現の能力】 (ワークシート)
4 他の意見に反対の意見を発表する。(5 分)	座った生徒の集中力を維持するため、他の生徒の意見を聞いて、その中から 2 つ選び、反対意見の英文を書くよう助言する。	個別	
5 ALT と JTE とのディベート的活動のデモンストラーションのビデオを見て、どちらの意見が説得力があるか判定する活動を行う。(10 分)	ALT と JTE とによる簡単なディベート的活動のイメージをもたせるようにする。	一斉	
5 本時のまとめをする。(5 分)	本時の学習内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。	一斉	

英語科学習指導案

平成 15 年 10 月 21 日（火）第 3 校時

3 年 5 組 チャレンジコース 指導者 奥村 隆

2 時間目

(1) 本時のねらい

英語の語順や英語らしい表現方法を使って、相手の意見を理解して自分の考えを英語で書くことができる。

(2) 準備 ワークシート

(3) 本時の展開

学習活動（時間）	学習活動への支援	形態	評価項目（評価方法）
1 英語であいさつする。 （ 5 分）	全体であいさつした後、英語で簡単な質問に答えることで、英語で表現しようとする雰囲気作りに努める。	一斉	
2 相手の意見に対する反論の仕方（ディベート）の基本を理解する。 （ 5 分）	日本語で練習し、的確に反論することの大切さ、おもしろさを理解できるようにする。	一斉	積極的に自分の立場の意見を言うことができる。 【関心・意欲・態度】 （観察）
3 「北中学校は楽しいか」のテーマにしたがって、ペアになり、肯定側、否定側に分かれて、日本語で、互いの意見に対し反論しあう。 （ 5 分）	互いに反論する前に自分の立場のメリットを考えメモをしておくように助言する。 相手の反論が自分の意見に対応しているか確認するために相手の意見をメモするように指示する。	ペア	
4 それぞれの立場から日本語で意見を発表し、日本語を英語に直していく。 （ 15 分）	日本語で肯定側の意見を黒板の左側から、否定側の意見を右側から書き、それを英語に直していく。その活動を通して、英語の語順や英語らしい表現で英文を作ればよいかのポイントを示すようにしていく。	一斉	指導者の助言を受けて日本語を英語に直そうとしている。 【表現の能力】 （観察）
5 「北中学校は楽しいか」のテーマにしたがって、ペアになり、肯定側、否定側に分かれて、ワークシートを用いて、紙上で相手の意見に対して反論する活動を行う。 （ 15 分）	相手への反論が書き終わったら相手に渡し、相手を書いている間は、それを見ながら、どう反論するか考えておくように助言する。 英語がわからない場合は、その部分だけを日本語で書いてもよいことにする。	ペア	相手の意見に対して反論の英文を英語で書ける。 【表現の能力】 （ワークシート、観察）
6 本時のまとめをする。 （ 5 分）	本時の学習内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。	一斉	

英語科学習指導案

平成 15 年 10 月 27 日 (月) 第 1 校時

10 月 30 日 (木) 第 6 校時

3 年 5 組 チャレンジコース 指導者 奥村 隆
3、4 時間目

(1) 本時のねらい

- ・自分の立場の主張 (立論) の英文が書くことができる。
- ・自分の立場の主張 (立論) の英文をグループでまとめるできる。

(2) 準備 ワークシート、基本英語表現集、英和、和英辞書

(3) 本時の展開

学習活動 (時間)	学習活動への支援	形態	評価項目(評価方法)
1・英語であいさつする。 ・ウォームアップとして、簡単な英語の質問に答える。 (5分)	全体であいさつした後、英語で簡単な質問に答えることで、英語で表現しようとする雰囲気作りに努める。	一斉 個別	
2.自分の立場についての立論の英文を書く。 テーマ 「進学するなら、公立高校か、私立高校か。」 ア指定されたグループになり、肯定、否定側をジャンケンで決める。 イ個々で、ワークシートに立論の4つの根拠を示しながら英文を考え、書く。 ウ自分の作った英文の意味を理解しながら音読練習をする。 (45分)	相手との意見交換に難しさを感じさせないために、対戦相手とは、等質のグループを作るようにする。 活動の進め方を説明し、進行をスムーズにするためにグループリーダーを決める。 これまでの活動で使ってきた表現を活用したり、「英語基本表現集」、辞書を参考にして、自分の立場の主張をわかりやすい英語で、具体例を上げるなど工夫しながら書くようにしていく。 書き出しにとまどっている生徒には、根拠となる視点(自然、便利性、食べ物)のヒントを与えるなど個別指導をして適切な助言をしていく。	個別	自分の立場をわかりやすい英語で、説得力のある内容で立論することができる。 【表現の能力】 (ワークシート、観察)
3 個人で書いた英文をもとにグループで話し合い、まとめ、グループの立論の英文を書く活動を行う。 ア出された意見に番号を付けて整理する。 イ同じ視点で書いてある根拠を集める。 ウ集めた根拠に見出しを付ける。 エ集めた根拠からわかりやすい英文で説得力のある内容のものを選んだり、まとめたりして、グループの立論の英文を作り上げワークシートにまとめる。 (45分)	まとめ活動が、スムーズに行うためにリーダーに司会を務めさせ、意見をまとめるようにしていく。 自分の書いた英文を読み、その意味を説明することで、傍観者を作らないようにする。 読んでわかりやすい英文か、説得力のある内容かを評価の観点として、話し合い、集めた根拠から自分たちの主張したい順にワークシートにまとめるようにしていく。 ゲーム性を高めるために一番自信のある根拠(第一根拠)は、相手に知らせないようにする。	グループ	積極的に話し合いに参加し、自分の作った英文を説明することができる。 【表現の能力】 (観察) グループのメンバーの根拠を理解し、グループの立論の英文を作り上げることができる。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート観察)
4 本時のまとめをする。 (5分)	本時の学習内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。	一斉	

英語科学習指導案

平成 15 年 11 月 4 日 (火) 第 3 校時

11 月 10 日 (月) 第 1 校時

3 年 5 組 チャレンジコース 指導者 奥村 隆

5、6 時間目 (見通し 3)

(1) 本時のねらい

- ・相手に対する反論の英文が書くことができる。
- ・相手に対する反論の英文をグループでまとめることができる。

(2) 準備 ワークシート、基本英語表現集

(3) 本時の展開

学習活動 (時間)	学習活動への支援	形態	評価項目(評価方法)
1 英語であいさつする。 ・ウォームアップとして、簡単な英語の質問に答える。(5分)	全体であいさつした後、英語で簡単な質問に答えることで、英語で表現しようとする雰囲気作りに努める。	一斉 個別	
2 それぞれ作成した立論を交換しあい、それを参考に相手に反論する英文を作成する。 個々で、ワークシートに相手の立論に対する反論の英文を考え、書く。 相手から知らされない根拠(第4根拠)を日本語で予想して、それに対する反論を考え、英語で書く。 自分の作った英文の意味を理解しながら音読練習をする。(45分)	これまでの活動で使ってきた表現を活用したり、「英語基本表現集」、辞書を参考にして、相手の立論にかみ合う(対応する)反論をわかりやすい英語で、具体例を上げるなどしながら書くようにしていく。 ゲーム性を高めるために相手の4番目根拠(第4根拠)についての反論は、相手の根拠を予想して書くようにする。 書き出しにとまどっている生徒には、根拠となる視点(学費、交通面、施設整備、部活動)のヒントを与えるなど個別指導をして適切な助言をしていく。	個別	相手の立論に対してわかりやすい英語で、説得力のある内容で反論することができる。 【表現の能力】 (ワークシート、観察)
3 個人で書いた英文をもとにグループで話し合い、まとめ、グループの反論の英文を書く活動を行う。 集めた根拠からわかりやすい英文で説得力のある内容のものを選んだり、まとめたりして、グループの反論の英文をワークシートに書く。 相手から知らされていない根拠(第一根拠)についてもワークシートにまとめて書いておく。(45分)	まとめ活動が、スムーズに行うためにリーダーに司会を務めさせ、意見をまとめるようにしていく。 自分の書いた英文を読み、その意味を説明することで、傍観者を作らないようにする。 読んでわかりやすい英文か、説得力のある内容かを評価の観点として、話し合い、集めた根拠から自分たちの主張したい順にワークシートにまとめるようにしていく。	グループ	積極的に話し合いに参加し、自分の作った英文を説明することができる。 【表現の能力】 (観察) グループのメンバーの根拠を理解し、グループの立論の英文を作り上げることができる。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート、観察)
4 本時のまとめをする。(5分)	本時の学習内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。	一斉	

英語科学習指導案

平成 15 年 11 月 11 日 (水) 第 3 校時

3 年 5 組 チャレンジコース 指導者 奥村 隆

7 時間目

(1) 本時のねらい

発表活動を通して、テーマにしたがって、英語で意見交換ができる。

(2) 準備 ワークシート

(3) 本時の展開

学習活動 (時間)	学習活動への支援	形態	評価項目(評価方法)
1 . 英語であいさつする。 ウォームアップとして、 簡単な英語の質問に答える。 (5 分)	全体であいさつした後、英語で簡単な質問に答えることで、英語で表現しようとする雰囲気作りに努める。	一斉 個別	
2 . 以下のような順番で発表を行う。 肯定側 (立論) 作戦タイム 否定側 (反論) 否定側 (立論) 作戦タイム 肯定側 (反論) 判定・感想 (40 分)	できるだけ、相手を見て発表することが、自分の考えを相手に理解してもらうことにつながり、大切なことであることを助言する。 相手に聞こえる大きな声で、また、イントネーションやアクセントに気をつけながら発表するように助言する。 相手の発表中は、メモを取るようにする。 判定している生徒には、反論が相手の意見に対応しているかを最も重要な判定材料にすることを指示する。	グループ 一斉	相手の立論に対してわかりやすい英語で、説得力のある内容で反論することができる。 【表現の能力】 (ワークシート、観察) 発表者の意見を理解し、判定基準に従って、勝敗を判定することができたか。 【理解の能力】 (ワークシート)
4 . 本時のまとめをする。 (5 分)	本時の学習内容のポイントを確認して、理解を深めるようにする。	一斉	

紙上ディベートにチャレンジ ワークシート

School is interesting.	School is boring.
<p>2人で合計していくつの英文を書けたでしょうか。 ()文 対応していた文は、いくつあったでしょうか。 ()文</p>	

Name _____ Name _____

ディベートに勝つための準備シート（立論・個人用）

論題（Proposition） 行くのなら、公立高校か私立高校か

あなたの立場 公立高校

（氏名）

（氏名）

（氏名）

（氏名）

ディベートに勝つためのワークシート（立論・グループ用 まとめ）ワークシート

論題（Proposition）

あなた方の立場 _____

主張

We have four reasons.

結論

ディベートに勝つための準備シート（反論・個人用）ワークシート

グループ _____ 氏名 _____

相手の立論の根拠 に対してあなたは言う？ 氏名 _____

相手の立論の根拠 に対してあなたは言う？ 氏名 _____

相手の立論の根拠 に対してあなたは言う？ 氏名 _____

相手が教えない4番目の根拠を予想しよう！！ 氏名 _____

相手が教えない4番目の根拠に対してあなたは言う？ 氏名 _____

ディベートに勝つためのワークシート（反論・グループ用まとめ）ワークシート
グループ

相手の立論の根拠 に対する反論

相手の立論の根拠 に対する反論

相手の立論の根拠 に対する反論

相手の立論の根拠(予想)に対する反論

結論

【ディベートをするとき必要な表現】

英語の語順（基本中の基本！！）これを**文**といいます。

誰が + どうする(どうした) + なにを(～に ...を) + いつ + どこで。
主語 動詞 目的語 時間 場所

自分の意見を言うとき（大切な順に言うことを忘れずに！）

first (first of all) , ...	第一に...
second, ...	第二に...
third, ...	第三に...
and finally (lastly Last of all), ...	最後に...

自分の意見を述べる時

I think that Letter is better than Telephone.	私は、手紙が電話よりよいと思います。
I am sure that students like basketball.	私は、生徒がバスケットボールが好きだと強く思います(確信します)。
I believe that Japan is the best country in the world.	私は、日本が世界で一番の国だと信じます。

反論するとき

I don't agree with you. I disagree with you.	私は、あなたの意見に反対です。
I don't think that Japanese people like a hamburger	私は、日本人は、ハンバーガーが好きだとは思いません。
I think that you are wrong, because his sister likes swimming.	私は、あなたが間違っていると思います。なぜなら、彼の姉は、水泳が好きだからです。
You might be right, but the Japanese don't like the music.	あなたは、正しいかもしれませんが、でも、日本人は、その音楽が好きではないのです。
It is wrong to say that Paul wants to go to Okinawa.	ポールが沖縄に行きたいというのは、間違いだと言わなければなりません。
I understand (see) your point, but I don't agree, because Gunma is a better place to live in than Tokyo.	私は、あなたのポイント(言いたいこと)は理解できました。しかし、私は、反対です。なぜなら、群馬は、東京よりすむにはよい場所だと思うからです。

相手が言うこと自分のメリットにしてしまう時に有効（高度な技）

That's why Gunma is good to live.	だからこそ、群馬は、すむのに適しているのです。 (この表現は、ディベートにおいて最強の技です。)
-----------------------------------	---

付け加えるとき（それに加えて、それだけでなく）

In addition, ...	付け加えて
not only Gunma but also Saitama have many nature.	群馬だけではなく、埼玉も、たくさんの自然があります。

比較、比べるとき

on the other hand, ...	一方で
... but ...	しかし、
... However ...	しかしながら、(Butよりも知的な表現です。どんどん使いましょう。)

結論を述べる時

in conclusion, ...	結論は...
in summary, ...	まとめると...

【便利な単語・熟語集】

高等学校に関するもの

a high school	高等学校	a high school attached to a university	附属高校
a public high school	公立高校	general education course	普通科
a private high school	私立高校	mechanical study course	機械科
a boys' high school	男子高校	electric study course	電気科
a girls' high school	女子高校	commercial study course	商業科
a coeducational high school	男女共学高校	agricultural study course	農業科
a vocational high school	実業高校	a vocational school	専門学校
a technical high school	工業高校	university	大学
a commercial high school	商業高校	job	仕事
an agricultural high school	農業高校	career	資格

教科に関するもの

Lessons	授業	art	美術
subject	教科	industrial art	技術
Japanese	国語	homemaking	家庭科
social studies	社会	P.E.	保健体育
math	数学	selective subject	選択教科
science	理科	homeroom	学活
English	英語	moral and ethics	道徳
music	音楽		総合的な学習

その他高校生活に関わる語彙 (名詞編)

level	レベル	school district system	学区制
club activities	部活動	~ courseまたはsection	~ 科
school uniform	制服	after school	放課後
lunch box	弁当	going to school by train (bicycle)	電車(自転車)通学
school lunch	給食	scholarship	特待(奨学金)制度
recommendation (system)	推薦(制度)	school expense	費用(学費)
facilities	施設・設備	traffic expense	交通費
sport field	運動場	exemption from school expense	学費免除
ability	能力(実力)	history and tradition	歴史と伝統

【英語基本文集】

School expense is expensive at ~	~では、学費は高い。
School expense is reasonable at ~	~では、学費は、安い。
I study hard everyday.	私は、毎日努力している。
Takashi could get scholarship.	隆は、奨学金（特待制度）をもらえた。
The school has very good facilities.	その学校は、とてもすばらしい施設設備を備えている。
I want to study at a school like that.	私は、そのような学校で勉強がしたい。
I want to be a student of a school like that.	私は、そのような学校の生徒になりたい。
Emi is longing for the school.	エミは、その学校にあこがれている。
The school is boring.	その学校は、つまらない。
The fashion is out of date.	そのファッションは、時代遅れだ。
The subject is important.	その教科は、重要だ。
The sport field is wide (narrow).	運動場は、広い(狭い)。
There is a scholarship at the school.	その学校には、特待制度がある。
The school has scholarship.	その学校には、特待制度がある。
For example, the high school is attached to F University.	例えば、その学校はF大学の付属高校だ。
When we choose a high school, this is an important point.	私たちが、高校を選択するとき、これは、とても重要なポイントだ。
The cloth is very fashionable.	その服はとてもおしゃれだ。
This is unfair.	これは、不公平だ。
This school has many courses.	この学校には、たくさんの科(コース)がある。
This school has high level of studying.	この学校は、学力のレベルが高い。
The school has some classes of different levels.	その学校は、違ったレベルのクラスがある。
We can study well there, because our abilities are same as the school level.	私たちは、そこでは、よく勉強ができる。なぜなら、私たちの学力は、その学校のレベルと同じだからである。
I don't want to use money to buy the book.	私は、その本を買うためにお金を使いたくない。
We can enjoy school life, because we don't need to take the test for a university.	私たちは、楽しい高校生活を送れる。なぜなら、大学受験をする必要がないからである。
We must study hard to get recommendation for three years.	私たちは、3年間、推薦を受けるために一生懸命勉強しなければならない。
That will be very hard (tough).	それは、とても大変なことだろう。
If we want to study more (harder), We had better go to university or vocational school.	もし、私たちが、もっと(もっと詳しく)勉強したいのなら、大学や専門学校へ行けばよい。
It takes only 5 minutes to go to the school.	その学校へ行くのにたった5分だ。
We can go to university through recommendation.	私たちは、推薦で大学へ行ける。
We can get a good job from the school. (if we get the school.)	私たちは、その学校からよい就職ができる。 (もし、その高校へ入れたら)